近畿地方整備局　入札監視委員会（第二部会）　平成２９年度第４回審議概要

開催日及び場所	平成30年３月６日（火） 神戸地方合同庁舎　３階　第６共用会議室	
委　　員	芥川真一（神戸大学大学院工学研究科教授　第二部会長代理） 角松生史（神戸大学大学院法学研究科教授　第二部会長　今回抽出担当者） 米田和史（米田会計事務所　公認会計士・税理士） （五十音順）	
審議対象期間	平成29年10月１日　～　平成29年12月31日	
報　告　事　項	①発注状況報告 ②指名停止措置の運用状況報告 ③談合疑義事実の選定に関する基準に該当した案件の発生状況報告 ④再度入札における一位不動状況報告 ⑤低入札価格調査制度対象工事の発生状況報告	（備考） ・①～⑤について、整備局資料に基づき説明を行った。

審議事項 ①抽出案件	総件数 6件	（備考） ［抽出件名］
〈工　事〉 一般競争入札方式 （WTO対象外）	1件	・廃棄物埋立地盤における杭引抜試験工事
一般競争入札方式 （WTO対象外）	1件	・和歌山下津港本港地区防波堤(外)(2)築造等工事
〈業　務〉 簡易公募型競争入札方式	2件	・八尾空港滑走路端安全区域検討業務 ・舞鶴港他環境調査
随意契約方式	1件	・神戸港ポートアイランド(第2期)地区特定外来生物定着防止緊急業務
〈役務の提供及び物品〉 一般競争入札方式	1件	・大阪湾粒子追跡システム及び環境データベース更新業務

	意見・質問	回　　答
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別　　紙

意　見・質　問	回　　答
【報告事項】 ①発注状況報告 ②指名停止措置の運用状況報告 ③談合疑義事実の選定に関する基準に該当した案件の発生状況報告 ④再度入札における一位不動状況報告 ⑤低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況報告 ・質問なし	

意　見・質　問	回　　答
【審議事項】 **１．一般競争入札方式（ＷＴＯ対象外）** 「廃棄物埋立地盤における杭引抜試験工事」	
・入札を辞退した者の、辞退までの経緯はありますでしょうか。	・詳細なヒアリングは行っていませんが、時期的に配置予定技術者のやりくりが難しかったものと考えられます。
・やはりこの時期は、業者も他の工事に忙しく、入札も少ない傾向にあるものなのですか。	・今回の辞退者のような比較的大手の企業は、できるだけ大きい工事を受注したいという考えもあるため、数千万円の規模である本工事に対しては様々な企業判断も働いたと考えております。
・入札手続きの時系列を確認させてください。１者の辞退の事実が判明したのは、１度目の入札の時点でよろしいでしょうか。	・そのとおりです。
・そして２者いるうちの１者が辞退、残り１者は予定価格超過で２回目の入札に移行した。２回目の入札時は残りの１者だけになったという状況は、入札参加者には分かるのでしょうか。	・入札の段階では、参加者には分かりません。
・では、残り1者に分かるのは、自社が予定価格を超過したということ、１回目の入札では予定価格の範囲内の者がいなかったということだけで、競争相手が何者いて、入札額がいくらであるかは分からないということですね。	・はい、分かるのはそれだけです。
・一般競争入札で、落札率が94.87％はかなり高いように思われます。	・通常落札率は９割程度であるので、確かに数パーセント高いようには見えます。ただし、本工事はもともと3,000万～4,000万円程度の規模の工事です。この額に対して１割あたりの額がいくらかということ、また試験工事でそれなりの金額がかかるということを考えると、落札率が高いという印象はありません。
・試験工事というやりにくい工事で、競争相手もなかなか手を上げにくい工事だから、ということなのでしょうか。	・競争相手がどうかまでは、分からないと思います。

・審議冒頭で時期的なことの話がありましたが、この時期だからこそ落札率が高くなった、ということはいえますか。	・時期的にこうなる、ということを統計的に判断するのは難しいです。
・調査基準価格に近いところで競っている入札もあれば、今回のような落札率の高い入札もあるんですね。	・工事の条件は現場ごとに変わり、常に一律の利潤でもなく、施工してみないと分からない部分が多くあります。そこをどう見積もるかも、企業の能力の一つといえるかもしれません。
・評価点で大きな差がついていたのに、辞退により評価点の低い者が逆転で落札したという結果も、大手企業が規模の大きい工事を指向したというような事情もあるのですね。	・ちなみに、評価点の低かった落札者は、当局での実績はないものの、大きな工事の下請けで杭や地盤改良に関する工事の実績を充分に有する者でした。杭に関する工事の専門性が高い業者であり、受注は問題ないことを確認しております。
・でしたら、落札者にとっては、今回は港湾空港部で実績を積んでいただく機会になったということですね。	・そうです。

意　見・質　問	回　　答
２．一般競争入札方式（ＷＴＯ対象外） 「和歌山下津港本港地区防波堤(外)(2)築造等工事」	
・国交省での施工実績がない者でも、工事を落札できるような発注方式はあるのでしょうか。	・チャレンジ型、という発注方式があります。過去実績の評価加重を少なくしている方式のため、初めて参加される者にはそこで実績を積んでいただくよう考えております。
・施工体系図を見たところ、競争参加資格なしとされた応募者が、本工事の一次下請けに入っています。これは、よくあることなのでしょうか。	・稀なケースです。
・元請けとしての競争参加資格がなくても、下請けには入ることができるのですか。	・入ることはできます。
・指名停止措置を受けたことで評価点を減点されている者がいます。指名停止期間が終わっても、一定期間は減点がされるのでしょうか。	・そうです。指名停止期間終了後、１ヶ月は減点を行うこととしています。

・競争参加資格なしとされた者は、施工計画の記載がなかったために資格を認められなかったとのことですが、競争参加資格の通知前に、この入札には勝てないと判断し、敢えて施工計画を提出しなかったという推測は成り立ちますか。	・そのようにも考えられます。
・そしてこの者は、下請けに入っている。	・元請工事の入札参加者が下請けに入ることを、まったく禁止しているわけではありません。工事によっては、施工可能な者が限られてくる場合もあります。また、下請けの業者が、企業の成長のために元請け工事の入札に挑戦する機会を妨げるわけにもいきません。このように、元請け工事の入札参加者が下請けに入ることを一律に禁止はし難い実情がございます。ただ、推奨できることではありません。 ・本工事の場合、この者は工事の全工種を一次下請けしているわけではなく、工事の一部分のみを下請けしております。工事の主たる工種すべてを下請けしていれば、不正の疑いは大きくなるでしょう。しかし建設業は専門職であり、各企業ごとの得意分野に応じて、1つの工事を複数社で分担して施工していくものです。今回の件については、工事の一部分の下請けにしか入っていないということで、問題はないと判断しております。
・一般論として、元請けの入札に参加していた者がその工事の下請けに入るというのは、談合のリスクがあると考えられます。	・そのような見方もできますので、我々も決して推奨しているわけではございません。ただ先ほど申し上げたとおり、建設業の構造上、仕方がないところがあります。
・配置予定技術者の能力評価について教えてください。継続教育（CPD)の履修実績ですが、この履修実績とは、過去数年間の累積をカウントしているのでしょうか。	・数年ごとに履修していくものですので、すべての履修履歴を確認し、加点に値するかを審査しています。
・過去の十数年にまで遡ってのカウントは行っているのですか。	・直近の履修年度に対応する数年間において、どれだけの履修実績があるかを確認しています。

意　見・質　問	回　　答
3．簡易公募型競争入札方式 「八尾空港滑走路端安全区域検討業務」	

・八尾空港のような、小さな空港が対象の業務なのでしょうか。	・滑走路端の安全区域の検討自体は、日本のすべての空港が対象です。伊丹空港のような大きな空港は、民営化され国の管理から外れていますので、近畿地方整備管内の国管理空港である八尾空港のみが、本業務の対象となっております。

意　見・質　問	回　　答
４．簡易公募型競争入札方式 「舞鶴港他環境調査」	
・価格差はほとんどなく、技術点の差で落札者が決まったということですね。企業の能力評価においては表彰の実績のある者が優位でしたが、業務理解度においては別の者が優位だった。すべての総合点において、業務理解度が優位であった方の者の点数が上回り、落札に至ったという理解でよろしいでしょうか。	・そのとおりです。落札者は、業務理解度や実施方針において、舞鶴港の地域特性への理解が高かったため、高い評価を得ています。
・落札者の舞鶴港の地域特性への理解が高かったということですが、この者の本社はどこですか。	・本社は東京ですが、実際に契約したのはこの社の近畿事務所です。

意　見・質　問	回　　答
５．随意契約方式 「神戸港ポートアイランド(第2期)地区特定外来生物定着防止緊急業務」	
・ポートアイランド地区以外でも同様の業務を随意契約で４件発注していますが、他の４件の受注者も、(一社) 埋立浚渫協会から紹介を受けた者でしょうか。	・そうです。(一社) 埋立浚渫協会への災害協定に基づく出動要請に基づき、協会から業務への緊急対応が可能な者として提示があった企業にお願いしております。
・ヒアリは、どこからどのような経路で侵入したのでしょうか。また、本業務は侵入したヒアリに対する業務ですが、翌年度以降のことも考え、ヒアリの侵入を予防するような対策は行うのでしょうか。	・ヒアリは主にコンテナ内、コンテナパレットの腐食箇所に生息しており、中国航路からの侵入が最も多いと考えられています。したがって、翌年以降も侵入の可能性はあります。我々としては侵入した際に繁殖を防止すること、生息できる環境をなくすことが対策にな

	ってきます。 侵入防止のためにコンテナの殺虫をお願いするといったような対策もありますが、日本だけでできる話ではありません。外交ルートを通じて、ヒアリが発見されたコンテナの多い国への働きかけは行っているのですが、どこまで対応していただけるかははっきりしません。 今できることとしては、ヒアリの生息環境となりうるひび割れの補修を早急に進めていくことです。
・（一社）埋立浚渫協会との災害協定に基づいて出動を要請したということですが、災害協定の出動要件に「その他必要とする業務」という要件があるので、協定が使える状況に限定はないのかなと思います。 そうすると、今回は緊急の対応が必要な業務ということで、この災害協定を使うのが最も迅速に対応可能な方法だと考え、出動要請をされたということでしょうか。 また、もし今後同様の対策業務が定例的に行われることとなったときには、またそれなりの体制を考えていくことになるのでしょうか。	・そうです。 ・緊急対応を終えた現在は、今後の対応についてもしばらく様子見のところはあります。ですが、ひび割れがなくなったわけでもありませんし、他にも外来生物がいるかもしれないという話もあります。災害協定を使うような事態は収束しましたが、我々としても、引き続き注視が必要と考えております。
・今回の受注者は、もともと特定外来生物への対処に関するノウハウをお持ちだったのでしょうか。それとも、元請けとして詳しい業者さんが選ばれたということなのでしょうか。	・特定外来生物に対するノウハウの有無というよりは、それなりの対応力を持つ者ということで選ばれたのだと思います。 本業務の主な内容がひび割れの補修であったため、ひび割れの補修に対応可能な者が選定されたと考えられます。
・今後定例的な業務になってしまう事態というのも困りますが、色々な対応が必要となる中、今回は災害協定が発動されたという点が、興味深いところでありました。	
・外来生物への対応というのは、貴局にとってもあまり経験が豊富ではない業務なのでしょう。外来生物のリスクの認識が高まっている状況で、港湾を所管する組織として水際での対策が期待されていると思います。今後どのような業務のありかたが適切か、ご検討いただければと思います。	

意　見・質　問	回　　答
６．一般競争入札方式 「大阪湾粒子追跡システム及び環境データベース更新業務」	
・大阪湾環境データベースのWebサイトの更新頻度を教えてください。	・３～５年に一度のペースで行っており、今回は４年ぶりです。
・頻繁な更新の必要のないサイトのため、３～４年おきで更新業務の入札を実施しているのですか。	・そのようにしております。
・データベースの中身についてですが、測定対象は毎回同じなのでしょうか。	・そうです。基本的には同じ対象を継続してモニタリングしています。
・昨今、環境ＤＮＡに関する報道が話題になりましたが、今後新しいモニタリング対象の追加を検討されることはありうるのでしょうか。	・海域における環境ＤＮＡについては我々も現在勉強中ですが、今後測定をしていくということになれば、我々もデータを公開していきたいと考えております。
・大阪湾環境データベースのデータも、大阪湾粒子追跡システムのデータもたくさんあるのですよね。両者の更新を一緒に行うほうが効率的との判断で、一件の業務として発注したのですか。	・そのとおりです。どちらも環境システムであること、発注時期が近かったこと、２つとも同じ事務所で管理しているため設定等の作業が一箇所で済むということで、経済性を考慮し１つの業務としました。

意　見・質　問	回　　答
７．全体を通して ・質問なし	